

本と文字の大きさについて

出版物やパンフレット等の文字の大きさは通常13級(9ポ)、14級(10ポ)大が多く使用されています。また、新聞の文字も最近は大きな文字に変わりつつあります。本の判型と目的に合わせて誰もが読みやすく、見やすい文字の大きさを選ぶことが重要となります。

● 12Q石井中明朝体の例 — (8ポ活字大)

文庫本に多く使用されている文字の大きですが、通常は縦2段組の本文、横組の住所録・資料などに使用されています。

● 13Q石井中明朝体の例 — (9ポ活字大)

これまでの一般的な雑誌・単行本・パンフレットなどの印刷物に多く使用されている文字の基本的な大きさです。

● 14Q石井中明朝体の例 — (10ポ活字大)

最近、大きい文字が好まれるようになってまいりました。小説本・機関誌に多く使われだしています。

● 18Q石井中明朝体の例 — (12ポ活字大)

歌集・句集に多く使用される一頁3〜5首(句)の場合。

● 20Q石井中明朝体の例 — (14ポ・4号活字大)

歌集・句集に使用される、一頁2・3首(句)です。

● 24Q石井中明朝体の例 — (16ポ・3号活字大)

見出し、歌集・句集
一頁1・2首(句)。

● 本の判型と大きさ

B6判=タテ18.2cm×ヨコ12.8cm

四六判=タテ18.8cm×ヨコ12.8cm

A5判=タテ21.0cm×ヨコ14.8cm

B5判=タテ25.7cm×ヨコ18.2cm

新書判=タテ18.2cm×ヨコ10.3cm